

本校の目的・目標に対する学修成果の自己評価

評価方法	平成29年8月30日教員職員会議において話し合いし、5段階の評価を行った。		
	目的に対しては本校の現段階を自己評価した。		
	目標に対しては平成29年8月在校生の目標達成度を教員職員で評価した。		
評価結果	結果は以下の通りである。 評価は1点から5点までの5段階で行った。		
	項目	評価点	
目的	1. 高校一本校一美容業界 三者連携		4
	2. 「幼児から高齢者まで」門戸開放		4
	3. 東アジアに向け美容文化の拠点形成		0
	4. 地域市民の生活美意識向上に貢献		4
	5. 長崎県美容文化の大衆化標準化に貢献		4
目標	①礼儀を身につけ信頼される人間性の研鑽		4
	②お客様に満足いただく技術提案能力		4
	③ホスピタリティマインドでアドバイス実践能力		4

本校の目的・目標に対する学修成果の自己評価内容について

【学校の目的・目標】

5つの目的

1. 高校 — 本校 — 美容業界 三者連携について
 - ・できているが更に連携を強化する。
 - ・個人情報を守る事を最大限に考慮しながら、連携を行うことができた。
2. 「幼児から高齢者まで」門戸解放について
 - ・老人会などで、ヘアショーやボランティアカットを行ったり、子供に対しては子供モデルによるショーを行い、本校を知ってもらうなどの機会を設ける。
 - ・総合技術実習において、様々な年代の方にお越し頂き、交流を行った。
3. 東アジアに向け美容文化の拠点形成について
 - ・ヘアセミナーなどを校外向けに行い、美容啓発活動を引き続き行っていく。
 - ・海外からの訪問者、学校についての問い合わせが増え始めている。
4. 地域市民の生活美意識向上に貢献について
 - ・職員が更に美意識を高めていくことにより、美容のアピール活動を行う。
 - ・地域の文化活動にも参加し、協力し合うことを大切にしている。
5. 長崎県美容文化の大衆化標準化に貢献について
 - ・地域の人たちに、ヘアスタイルの提案やアドバイス活動を行う。
 - ・高齢化が進む中、美容学生の存在は大変意義がある為、今後も校外活動にも力を入れる。

【3つの教育目標】

- ① 礼儀を身につけ信頼される人間性の研鑽について
 - ・日頃行っているが、定着していない。定着させていくために入室の際、教員も一礼をして自ら行動で模範を示すことにする。
- ② お客様に満足いただく技術提案能力について
 - ・1年生次より、相モデルなどでカウンセリングの実践を講義、実習を交えてロールプレイングを行う。スマートフォンのアプリを利用した授業なども取り入れ提供能力を高める。

③ ホスピタリティマインドでアドバイス実践能力について

- ・サービス業ではなく、お客様のために無償の心で見返りを求めないという気持ちをもつ為の授業内容改善を早急に行う。
- ・自分自身の存在価値を十分に考えさせ、人の為になる事を喜びと思えるような取組みを、引き続きしていく。